



こどもたちに「梅雨といえば」と問いかけると必ずと言っていいほど「かたつむり」と答えてくれます。「かたつむりのことをでんでん虫とも言いますよね」と話しかけると、低・中学年の子たちは「で～んでん むしむしかたつむり～」と歌い出します。時にはその次の話に移るのが大変なほど盛り上がることもあります。そんな「かたつむり」ですが、虫かごから、野菜や枝にくっついているかたつむりを出し、実物投影機の下に置いて、じっくり見ると…。

3ミリくらいの黒い小さなかたまりを「これは生まれたての赤ちゃんです」と紹介したら「赤ちゃん!?!」「ふん

じゃないの?」とこどもたち。じっとみていたら角のようなものが出てきて歓声があがりました。排出物ではなくかたつむりのベイビーです。それを見て、

『かたつむり 生まれたときから 大人みたい』

と詠んだ子がいました。また、休み時間に眺めていた子が、

『かたつむり チャイムなったら からに入る』

と詠み、自分たちとかたつむりを重ねていることがわかりました。

「かたつむり以外の生き物でもつくってみましょう」と提案すると、「蟻!」「あめんぼ!」と想像豊かなこどもたち。そんな中で「金魚でもいい?」と聞いてきた児童がいました。「前にいたけど、死んじゃったんだ」と寂しげにぽつり。その児童は、

『6年間 泳ぎ続けた 金魚かな』

と詠みました。こどもたちの感性は無限大です。